

平成31年
令和元年

今年の10大ニュース

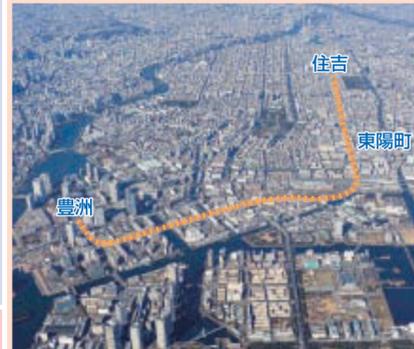
学校の体育館に空調設備を設置

昨今の夏は、環境省が公表する暑さ指数(WBGT)において、最も高い「危険(運動禁止)」を示す日が大幅に増加するなど、過酷な暑さに見舞われています。熱中症等を予防し、教育環境を速やかに改善するため、区立小・中学校の体育館に、冷暖房機能を備えた空調設備の設置を進めています。▲スポット空調方式の機器を採用
現在、中学校は、工事中の深川第四中学校を除いて設置が完了し、小学校についても、2月中に設置が完了する予定です。今後も、児童・生徒が安全に活動できる環境を確保していきます。



地下鉄8号線延伸の早期実現へ全力

5月、国土交通省は「東京圏における国際競争力強化に資する鉄道ネットワークに関する検討会」の調査結果を公表し、東京8号線(豊洲~住吉間)は整備効果が高く、収支採算性も良好であることが改めて確認されました。また、10月には、区長と小池都知事との会談において、都知事は「国とメトロとの調整を、現在、都として進めている。延伸の早期実現に向け私自身全力で取り組みたい」と表明しました。地下鉄8号線の延伸は、豊洲市場開場に伴う区と東京都の約束です。区は引き続き、区民・区議会とともに、東京都が確実に約束を果たし、地下鉄8号線の延伸が実現するよう強く働きかけていきます。



▲みんなで伸ばそう! 地下鉄8号線

平成31年・令和元年を振り返って



江東区長
山崎 孝明

4月に行われた区長選挙では、多くの区民の皆様からのご信任により、再び区長の重責を担わせていただくことになりました。今年には長年の課題の一つで、大田区からの提訴により東京地方裁判所で係争中であった「中央防波堤埋立地の境界確定訴訟」の判決がありました。判決結果は誠に遺憾でありましたが、東京2020大会までにこの問題を解決するとの両区の約束に基づき本区は判決を受け入れ、苦渋の選択により解決への道筋を示しました。また区の重要課題である「地下鉄8号線(豊洲~住吉間)の延伸」は、豊洲市場開場に伴う東京都との約束であり、延伸の早期着工に向けて、区議会と連携し東京都に約束の確実な履行を強く働きかけているところです。東京2020大会まで1年をきり、区内では新たな競技会場が続々と完成しています。区の気運醸成の取り組みとともに、大会が日に日に近づいていると感じられるようになってきました。今年本区の人口は52万人を超え、現在令和2年度から10年間の区の羅針盤となる、新たな「江東区長期計画」策定の最終作業を進めています。新たな時代の要請に応えるため、長期的な視野に立ち、区民皆様のご意見やご要望を大事にして施策に反映してまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピックまで7か月!



▲カヌーとボートが開催される海の森水上競技場

来年に迫る東京2020大会に向けて、区内開催競技が体験できるイベント「KOTOスポーツキャラバンto東京2020」を年8回開催しました(1/11(土)にも開催。詳細4面)。今年も、競技の魅力やより体感できる企画としてアスリートのパフォーマンスなどの内容を充実させました。また、児童・生徒が自ら夢をもち、その実現に向け、努力をしようとする意識を高めるため、「江東区オリンピック・パラリンピック学習リーフレット」を作成し授業等に活用しています。臨海部では、海の森水上競技場や有明体操競技場など、競技会場が続々と完成し、大会開催の準備が着実に進んでいます。



▲学習リーフレット・中学生(左)、小学生(右)の活用



▲区内開催競技を体験!

子育て家庭を応援

4月、旧深川清掃事務所跡地や有明地などを活用した認可保育所を開園するなどにより、約1,300人の認可保育定員を確保しました。また、10月には、こどもが病気により普段通う保育園での保育が難しいときに、こどもを預かる「病児・病後児保育施設」を豊洲地区に新たに1施設開設しました。このほか、来年度以降、子ども家庭支援センターを3か所整備する予定です。今後も保育待機児童の解消を目指すとともに、子育てしやすい環境整備に取り組んでいきます。



▲4月に開設した認可保育所「まなびの森保育園白河」

中央防波堤埋立地の帰属問題が終結



中央防波堤埋立地の帰属については、東京都自治紛争処理委員の調停案を不服とした大田区の提訴により、東京地方裁判所において係争中でしたが、9/20に判決が示されました。

区は東京2020大会までに決着を図り、次の世代に夢を託す第一歩を踏み出すことこそが何より重要であるとの大局的な見地から、区議会とも十分に協議した上で、9/26に判決を受け入れることとしました。また、大田区も10/31に判決の受け入れを表明したことにより、長年にわたり続いてきた帰属問題がようやく終結することとなりました。

来年の東京2020大会の会場となる「海の森水上競技場」「海の森クロスカントリーコース」も含めた新たな土地の町名については、現在公募している町名案を基に、選定委員会が決定し、2月から開かれる区議会(令和2年第1回定例会)への議案提出を行う予定です。

▲持続的に発展するまちづくりへの活用を目指します

初の避難勧告発令



▲災害対策本部の様子

▲区職員を派遣し、被災地を支援

10/12・13、台風19号が東日本を襲いました。区では、災害対策本部を設置し、荒川の水位の上昇が見込まれ、氾濫の危険性が高まったことから、被害発生の可能性が高いと判断した区東部の地域に、江東区初となる避難勧告を発令しました。併せて、勧告対象地域を中心に、小・中学校等23か所を避難所として開設し

ました。また、被災地への支援として、区民の方から多くの義援金が寄せられたほか、区では、災害ごみの収集・運搬作業や災害証明書発行などの業務に従事する職員を被災地に派遣しました。今回の台風への対応を検証するとともに、災害への対策強化に取り組ま

新長期計画の策定へ加速

区では、令和2年度からの10年を計画期間とする新たな長期計画の策定を進めています。長期計画とは、まちづくりと区政運営の羅針盤となる重要な計画です。「みんなでつくる」計画を目指し、昨年からの引き続きとなる、区民参加によるワークショップ「区民会議」や区内の大学との連携のほか、新たに中学・高校・大学生を対象とした「ジュニア会議」などを開催。区の魅力や江東区の10年後のあるべき姿などについて、多様な世代から意見・アイデアを伺いました。また、パブリックコメントを実施し、区民の皆さんのご意見を募集したほか、区民説明会も5回開催しました。いただいたご意見などを踏まえ、来年3月の長期計画策定に向けて検討を進めていきます。



▲多くの方が参加した区民会議



▲「ジュニア会議」の様子

高齢者へのサポートを拡充・強化

住み慣れた地域でいつまでも健康で元気に暮らし続けられるよう、「要支援」の方やこれに相当する方を対象とした「元気アップトレーニング」の実施場所を、6月から拡大しました。また、認知症などで外出が不安な方を対象に、警察が身元情報を照会できる「みまもりキーホルダー」を配付するとともに、介護する方の負担を軽減できるよう、検索アプリを活用した認知症サポーターによる見守りを推進するため、(一社)日本地域ケア協会と協定を締結しました。今後も高齢者とその家族へのサポートに取り組んでいきます。



▲「元気アップトレーニング」を35か所で実施

環境に配慮した施策を展開



▲コミュニティサイクルの利用エリア拡大中!

自動車移動の減少によるCO₂削減効果などが期待される「江東区臨海部コミュニティサイクル」が、区内100ポート1,000台を突破しました。また、環境学習の拡充のため、再生可能エネルギーである清掃工場のごみを燃やした熱で発電した電気の導入を全立小・中学校および義務教育学校に拡大しました。このほか、食品ロス削減に取り組んでいる店舗や取り組もうとしている店舗を「江東区食べ残り協力店」として登録し、その取り組みを応援しています。今後も環境に配慮した社会を目指して、さまざまな施策を進めていきます。